

環境教育

Report

2020.Vol.9

C O N T E N T S

•新関 隆教授からの言葉		•先輩に聞きました	P.5
•松木孝幸教授からの言葉	P.1	•ハワイ大学 環境保全&英語研修	
•1年生フレッシュマンセミナー& 2・3年生フィールドワーク	P.2	•研修先変更について	P.6
•ボラガールインタビュー	P.3	•環境教育学科で「微生物学」の講義を担当して 非常勤講師 川上裕司	P.7
•緑苑祭 環境教育学科 活動レポート 緑苑祭学科企画	P.4	•東京オリンピック —新国立競技場での環境への取り組み—	P.8

本校に初の情報教員として赴任したのは、平成4年4月1日でした。3月末に引越し荷物を研究室に入れていたとき、初見の人に「今日は何をしているんだ」と聞かれました。いやに馴れ馴れしいなと思いましたが、これが木元先生(元学長)と間違われた最初の日でした。赴任する前は7年半ほどアメリカで研究生活を送っていたため日本で本格的に就職したのはこれが初めてであり、いろいろと戸惑うことがありました。大学の委員会に出席して発言すると「松木先生は宇宙人だから」などと言われて、私の言動が揶揄されました。当時は環境情報専攻に所属する学生達の1・2年を狭山キャンパスで、3・4年生を板橋キャンパスで教えていました。その頃

私が現在関わっている入試についての話から始めさせていただきます。大きなニュースになりましたが、いよいよ入試改革本番という時期に英語外部試験導入をめぐり、大学入試に対する混迷が深まってしまいました。大変とは思いますが、受験生の皆さんには落ち着いて実力をつける勉強を進めてもらいたいと思っています。このような状況もあって、推薦型選抜・総合型選抜の受験生が増加すると見込まれており、すでにその傾向が出ています。ペーパー試験だけではないこれらの入試では幅広い総合力が評価されます。さらに5年後には「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す新学習指導要領のもと、さらに新しい入学者選抜が行われる予定になっ

私の後半生を過ごした場は 一生の宝物

環境教育学科 教授 松木孝幸



は私も若く、学生達を家に呼んだり、学園祭のパレーボール大会に参加したりして学生と一緒に楽しみました。今でもその当時の学生達とは時々会ったりしています。在職中はアメリカに半年ほど行かせてもらい、その間に貿易センタービルへのテロ攻撃にも出くわしました。日本に帰国後の30年間はあるという間でしたが、私の後半生を過ごした場は一生の宝物となっています。



求められる 持続可能な社会の創り手

環境教育学科 教授 新関 隆



といます。このように、これまで環境教育学科が目指してきた「幅広い総合力」、「持続可能な社会の創り手」といったことが普遍的な教育目標となってきました。そしてそのことを評価できる入試へと移行する改革が進んでいます。これらの高校までの教育改革、大学の入試改革の先は、大学での学習・教育を、一層幅広く、そして、持続可能な社会の創り手として**実際に行動できる**、というところまで昇華させる、ということへとつながります。

一層幅広く、そして、実際に行動できる、といった人材育成を目指した学習・教育へと進化させていくことを皆さんと目指していきたいと思っています。

1年生フレッシュユマンスセミナー&2・3年生フィールドワーク

1年生フレッシュユマンスセミナー

(担当) 徳岡、中島

私たち環境教育学科の1年生は、入学してすぐの4月10日にフレッシュユマンスセミナーの行事として、神奈川県三浦半島の先端にある小網代の森とソレイユの丘を訪れました。

小網代の森は、相模湾に面した約70haの東京ドーム約15個分の大きさの森です。約2000種もの多くの生き物が生息し、源流域を含む森林・河川・干潟が開発されずにまわって残された、首都圏では唯一の自然環境です。私たちはこの森を訪れる前に、自然環境豊かな小網代の森のことや、その森の遊歩道を歩くことができると先生方から説明を聞いていたため、とても楽しみにしていました。



しかし当日はあいにくの雨で、楽しみにしていた遊歩道を歩けなかったことが、とても心残りです。その代わりに、小網代の森の保全活動をしている方から普段は聞くことのできない貴重なお話を伺うことができました。お昼ごはんは、ソレイユの丘という公園でバイキングをしました。食事班ごとにわかれて、さまざまな魚介やお肉などを目の前で焼いて食べました。最初はぎこちなかった友達とも、食べ終わるころにはお互いに打ち解けて話すこともでき、とても楽しい時間を過ごしました。このセミナーを通して、多くの友人を作ることができてよかったです。

2年生フィールドワーク

(担当) 常盤

2年生のフィールドワークでは、神奈川県相模原市で不耕起栽培を行っている『大家族』というグループの方々に、不耕起栽培無農薬の田んぼでの農業体験をさせていただきました。通年で5月に草刈りと耕作田植え、6月に草刈り、希望者のみ10月に稲刈りと3回の実習を体験させていただきました。5月の田植えでは慣れない泥の感覚に最初は驚きましたが、だんだんとその泥の感覚が心地よくなっていきました。また様々な生物や虫がたくさんいて、とてもいい環境で稲が育つことができると感じました。6月の草刈りでは稲と間違えないように気をつけながら雑草を抜きました。10月の稲刈りは、台風直撃のためみんなで収穫の感動を分かち合うことはできませんでしたが、台風にも負けない丈夫な稲が育っており、10月でもまだまだたくさん虫がいました。



『大家族』の皆さんは無農薬や不耕起栽培の大切さを広めるため、無農薬のお米をつくり自然と共生しながら農業を行う大切さを伝える活動をしています。私も今回無農薬のお米がなぜ美味しいか、無農薬栽培ということにどのような意味があり、なぜ大切なのかを体験を通して学びました。最近虫の音が小さい頃に比べて聞こえなくなっています。また農業者が高齢だったり、跡取りがないため農業人口が減っています。3回程の体験でしたが、自然の大切さや、私たちが普段食べているお米をつくる大変さ、一つの物を育てるために様々な工夫など、多くの人が関わっているということがよくわかりました。環境を考慮した農業の素晴らしさや魅力を私たちが次の世代へ残して行かなければならないと実感しました。

3年生フィールドワーク

(担当) 安田

板橋区エコポリスセンターでは、板橋区の小中学生の子どもたちと一緒に身近なものでできるリサイクル、夏休みの課題にもなる自由工作などをつくるエコスクールを開講しています。

エコポリスセンターにて環境教育学科3年生が主体となりエコスクールを開講させていただきましたことになりました。私の班では、ティッシュの空き箱を使った福引きづくりを行いました。

エコスクールでは、環境問題からエコについて知り、考えてもらう機会をつくることも目的のひとつでもあるため、事前に環境について教えていただき、小学生でもわかりやすいエコに関するお話をパワーポイントを使って作ることにしました。わかりやすさを重視したパワーポイントづくりはセンター職員の方々の意見をたくさんいただき、修正を重ね本番に挑みました。

また、当日初めて集まる子どもたちと少しでもリラックスして講座をすすめるため、アイスブレイクという同じ動作をしたりモノマネをしたり、体を動かすことで緊張をほぐす時間を作りました。

慣れない3年生メインでの進行でしたが、2人1組が各班の担当となり、時には保護者の方と一緒に安全に考慮して図工を行いました。

少し、私達の不慣れも目立ちましたが、小学生達の初めて取り組む真剣な雰囲気がとても新鮮でした。

小中学生に向けて開いた講座は普段私達では意識しないことに気づかせていただきました。親御さんたちのアンケートでも、気をつけていた点を褒めてくださったり、逆に「もっとこうしたほうがいい」という改善点のご指摘もいただき、子供を対象にした講座という貴重なとても良い体験をさせていただきました。



大学内には公認サークルの『ボラガール』があります。今回はボラガールについてサークルに所属している環境教育学科3年小島萌（こじま めぐみ）さんにお話を聞きました。

——『ボラガール』はどんな活動をしているサークルですか。
小島さん（以下小） 『ボラガール』は主に大学周辺のお祭りやイベントの運営補助、子ども食堂やデイサービスのお手伝いのボランティアのほか、長期休みには地域活性化の活動や環境保護など、国内・国外問わず、さまざまなボランティア活動をしていますサークルです。

——なぜ『ボラガール』に所属しようと思ったのですか。

小 私が小学6年生の時に東日本大震災が起こり、その時ボランティアをしている人たちがニュースに映り、私も何か力になりたいと思いました。しかし、中学・高校となかなか勇気がでず、大学生になったら絶対にボランティアにかかわることがしたいと思いこのサークルに入りました。また私は将来環境保護の仕事に就きたいと考えています。そのためにもさまざまな分野の活動



ボラガール・インタビュー

他人事にはせずに考えてみることで、
そして行動を起こしてみることで
とても大切だと感じます。

volagirl
interview

ができるボラガールを選びました。

——環境教育学科と関連していると感じるときはありますか。

小 環境保護のボランティア活動をしているとき、とても学科と関連していると思います。ゴミ拾いはもちろん、特定外来生物の水草駆除、繁殖しすぎて海に蓄積してしまった牡蠣殻の駆除などの活動を通して、実際に身をもって環境問題を感じ考えさせられる機会が多いです。

——ボランティアを通して思うことはありますか。

小 環境問題をはじめ、私たちの身の周りにはさまざまな課題があることを知りました。それを他人事にはせずに考えてみることで、そして行動を起こしてみることでとても大切だと感じます。特に環境保護のボランティア活動は、ゴミ拾いや水草の除去など、体力的にも大変です。私はその大変さを身をもって知りました。「もっと環境を良くしたい」「自然を守りたい」という意識が強くなると同時に、さらに活動を頑張っていきたいと思うようになりました。

小島さんにお話を聞いて、サークル活動をとても熱心に行っていることが伝わりました。環境問題を始めるさまざまな活動はこれからの地球環境問題にとっても大切なことです。私も地域のボランティア活動に参加してみようと思います。

（担当/前田）



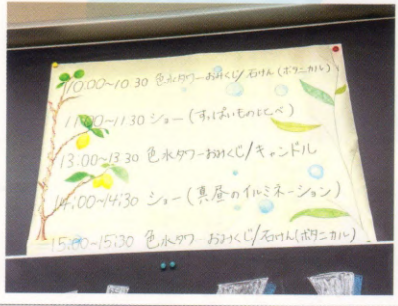
緑苑祭学科企画

(担当/甲賀)

10月26日(土)・27日(日)に第59回緑苑祭が行われ、環境教育学科も参加しました。前日の雨で準備が当日に延期になり、開催時間が昼12時からになるなど多くの変更点があったため、一部円滑な運営が危ぶまれましたが無事に今年度も文化祭を終えることができました。

今年度は全て環境教育学科の1年生が中心となって計画から企画実行まで行いました。多くの方々にお越しいただき、小さなお子様から大人までの幅広い年齢層の人たちに楽しみながら科学に触れていただく良い機会を作ることができました。

実験の内容として、昨年度好評だった『シャボン玉遊び』を始め、『色水タワーおみくじ』、『酸っぱいもの比べ』、『真昼の



タイムテーブル

い実験でした。『酸っぱいもの比べ』ではフルーツジュースや調味料などの身近な食品の酸っぱさをシャボン液を使って調べる実験でした。『真昼のイルミネーション』ではルミノール反応を応用して溶

イルミネーションなどの観察実験を中心とした内容に昨年と同様、『アロマキャンドル作り』や『ポタニカル石鹸作り』などの製作実験も行われました。

『色水タワーおみくじ』は赤や青に着色した砂糖水と食塩水を使用して2色のカラフルなタワーにした後、タワーの溶液に紙を漬けてハートが出てきたら当たりという、可愛らしい実験でした。『酸っぱいもの比べ』ではフルーツジュースや調味料などの身近な食品の酸っぱさをシャボン液を使って調べる実験でした。



真昼のイルミネーション

液を色々な色に発光させる実験ショーを行いました。昨年度は主に製作をしながら科学に触れることができる内容でしたが、今年度は目の前でやられていた実験の変化していく様子を観察し、なぜ変化を起こすのかについてヒントを得ながら考えることが出来るような内容でした。

お越し下さったお客様は、目の前で起きている不思議な現象が身近に手に入るものを使って起きていることに驚いていたり、カラフルな実験に目を輝かせている様子でした。今回も沢山の方々に足をお運びいただきたくを学科としてとても嬉しく思います。次年度はどのような企画が行われるのか、次年度の緑苑祭も環境教育学科の学科企画に期待がかかります。



緑苑祭

環境教育学科活動レポート

先輩に聞きました!

現場の第一線でご活躍されている

環境教育学科の先輩方から

貴重なコメントを頂きました!!

自分たちが作っている素材が、様々な食品に使われていることにやりがいがあると思います。



2020年度卒
かきざわあやか
柿沢采花 さん
仙波糖化工業株式会社
勤務

● 今後携わる仕事の内容を教えてください。

加工食品の色や味、風味づくりなどを手がけている食品素材メーカーにて、品質管理や製品開発の仕事に携わりたいと考えています。

● この仕事に就こうと思ったきっかけはなんですか。

実験実習で学んだ操作技術が活かせるような仕事をしたいと考えたからです。また、入社1年目から品質管理や製品開発に携われることや、

多くのメーカーと取引をしていることから、幅広い製品づくりに携わることができていることに魅力を感じています。

● この仕事のやりがいや、この仕事について良かったと思うことはありますか。

自分たちが作っている素材を使った食品を食べない日はないというくらい、様々な食品に使われていることにやりがいがあると思います。

また、自分の作ったものが製品の一部として使われ、最終製品としてスーパーやコンビニなどに並んでいるのを見た時に、この仕事について良かったなと実感すると思います。

● 反対にこの仕事の大変なところはなんですか。

予期せぬ不良品が発生してしまった場合に原因を突き止めなければいけません。その原因がすぐにわからなかったり、解決策が見つからないような時は時間をかけてでも調査や分析をし、答えが見つかるまで粘り強く考えていくことが求められるため、丁寧かつ地道な作業をこな

していかなければならないことが大変だと思えます。

● 環境教育学科で学んで良かったことはなんですか。

実験実習で学んだ基本的な操作技術をそのまま仕事に活かせるので、学んで良かったなと感じます。また、実験のスキルは勿論、考察や研究発表を通して、自分の考えを伝える力や相手の話を理解する力が身についたと感じています。これは、どの職業に就いても役に立つことだと思います。

● 最後に学生時代にやって良かった方が良いことはありますか。

自分の時間が自由に取れる今のうちに勉強も遊びも色々なことを経験しておいた方が良いと思います。その中で自分がやりたいことは何なのか、自分の長所や短所も見えてきます。それが就職活動をする上で一番大切な自己分析に繋がると思うので、今のうちから色々なことを経験して自分を見つめ直す時間を作るのは大切なことだと思います。

(担当/常盤)



ハワイ大学 University of Hawaii 環境保全&英語研修

2017年2月5日(日)から19日(日)の2週間、学生11名と引率の吉原先生、井上先生と共にハワイ大学環境保全&英語研修に参加しました。

ハワイの自然の中で環境保全について学び、さらに英語を使って生活することに魅力を感じ参加しました。

研修の内容は、午前は英語の授業です。アクティビティ先の事前知識を学び、前日に体験したことについて皆で意見交換します。留学最終日には、ハワイで学んだ環境問題をそれぞれポスターにまとめ発表しました。そして、

課外授業で一番印象に残っているのはマウナ・ケア山での星空観察です。満天の星空、人工衛星、天の川を実際に見た感動は今でも忘れられません。連日多種多様なアクティビティが用意されていて、充実していました。毎日濃密な時間を過ごし、豊かな自然に触れ、日本とハワイのそれぞれの環境問題をより理解することができました。経験は必ず財産になります。是非皆さんもチャンスがあれば留学してみてください。

(担当/石原)



環境保全&英語研修が スコットランドの エジンバラ・ネピア大学に

毎年、環境教育学科では環境保全&英語研修を実施しています。隔年でツインズランド州立大学(オーストラリア)とハワイ州立大学ヒロ校(米国)にて研修していましたが、クイーンズランド州立大学との契約終了に伴い、来年度からエジンバラ・ネピア大学(スコットランド)へ変更になりました。



換するプロジェクトが進行中です。今そこにある危機に対してどのように取り組んで克服していくのかが、まさに我々の指標として存在しています。

ネピア大学では、午前中の英語研修と午後の再生エネルギーに係る環境研修を実施します。学生は2名1組となりホームステイし、ホストファミリーとの会話を通してすぐに使える英語を身に付けることができます。

週末は自らの英語力を信じて小旅行に出かけることになってしょう。近隣のグラスゴー大学はハリーポッターシリーズのホグワーツ魔法魔術学校のロケ地ですし、北部のハイランド地方まで行けば007「スカイフォール」のロケ地があります。ロンドンまで行けば、キングス・クロス駅に「9と3/4番線ホーム」のロケ地があり、



運が良ければホグワーツ特急に乗れるかもしれません。

(担当/池田壽文教授)



環境教育学科で「微生物学」の講義を担当して



大学院人間生活学総合研究科/環境教育学科 非常勤講師 川上裕司

私が講義の根幹としてきたことは、
『地球環境のあらゆる場所に関わっている微生物』を
生活環境に落とし込み、生活者の目線で教えることでした。

2010年より本学で非常勤講師として教えることになり、大学院博士課程では『住生活環境学特論』、環境教育学科では『生命科学』、『環境微生物学』、『環境衛生学実験Ⅰ』、『環境衛生学実験Ⅱ』の4科目を担当してきました。私が講義の根幹としてきたことは、『地球環境のあらゆる場所に関わっている微生物』を生活環境に落とし込み、生活者の目線で教えることでした。その一例として、『微生物はお化けと同じ』で、一般の方々には目に見えず、その実態が解らない微生物に対して、正しい知識を得ることが難しいこと。その結果と

して、『ハンセン病』への差別が令和になった現時点でも無くならないことなどを座学と実験を通して講義してきました。らい菌、結核菌、ビフィズス菌が同じ『放線菌』の間であることが解った受講学生諸氏は『微生物はお化けと同じ』の意味を十分理解できたのではないのでしょうか？

理科の教員になる方、技術職に就かれる方、公務員になる方など、進路は様々だと思いますが、座学と実験で研鑽した知識が何処かでほんの少しでも役立ってくだってくれたら幸いです。



2020年の夏に東京でオリンピックが開催されます。世界から多くの人々が延べ1500万人と推測され、経済効果が期待できる一方で環境に対する影響が心配されます。新たに建設された、新国立競技場では環境に負荷をかけないために様々な工夫がなされています。

新国立競技場は従来の競技場には無い、日本の伝統的な建築に用いられる軒庇(のきびさし)という庇を杉の木で作り、取り付けたことによって東京の強い日差しを柔らかな光に変えることで、暑さ対策や自然と調和するような優しい雰囲気を作り出します。

太陽光発電による電力の供給や雨水・井戸水の有効利用などの自然エネルギーを積極的に利用する他、自然風を取り入れ、風を循環するような構造にしたことによって電力を多量に消費する冷房を使わずとも涼しく過ごせる構造となっており、選手と観客が快適に過ごせる会場となっています。

東京オリンピック —新国立競技場での環境への取り組み—



また、新国立競技場の立地場所は明治神宮外苑、新宿御苑、赤坂御用地、皇居などあらかじめ緑が多いエリアということもあり、スタジアムとその周辺には多くの木が植えられ、自然と調和するような景観になる他、高い建物がそびえ立ち、アスファルトに覆われている都心部で起こるヒートアイランド現象を抑制し、気温を下げる効果も期待されています。新国立競技場の付近一帯の緑化により、未来に緑を残すことができる工夫もなされています。

これからの時代、ますます環境への配慮が必要になっていく中で新国立競技場のような、環境に配慮する工夫が多くなされている公共施設が増えることは、環境について人々に考えてもらう良いきっかけになるのではないのでしょうか。

そして日本の環境への配慮の工夫が海外の人々に良い影響を与え、世界中の人々が地球環境への関心を持つようになればいいと思います。

(担当/甲賀)

会員情報・連絡

「環境教育REPORT」は年刊です。来年の春にまた皆さまの元へお届けいたします。
◎連絡先が変更になられた方は、必ず下記までお知らせください。

編集委員募集

「環境教育REPORT」の編集・発行に参加してみませんか。編集委員を担当して下さる方を募集しています。また、環境情報学科・環境教育学科を卒業された先輩方、環境教育の現場で現役の皆さま、ご参加をお待ちしております。担当して下さるとい方は右記までご連絡をお願いします。

朋翠会連絡先

〒173-8602
東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学
生活環境学研究室・吉原 富子
TEL: 03-3961-4286
E-mail: yosihara@tokyo-kasei.ac.jp



石神井川の桜
撮影：安田京加

編 | 集 | 後 | 記 |

「環境教育REPORT」Vol.9をお読みいただきありがとうございました。今年はメンバーが大きく入れ替わったことで、今までにはない新しい仕上がりになっていると思います。取材にご協力いただきました皆様、ご指導・ご協力くださいました当大学の吉原富子先生に感謝いたします。また、お会いしましょう。来年度の発行もお楽しみに！

編集委員



安田京加
(3年)



前田菜緒
(3年)



常盤明日香
(2年)



甲賀富士子
(2年)

次号の発行は
2021年3月17日です!!
お楽しみに!!